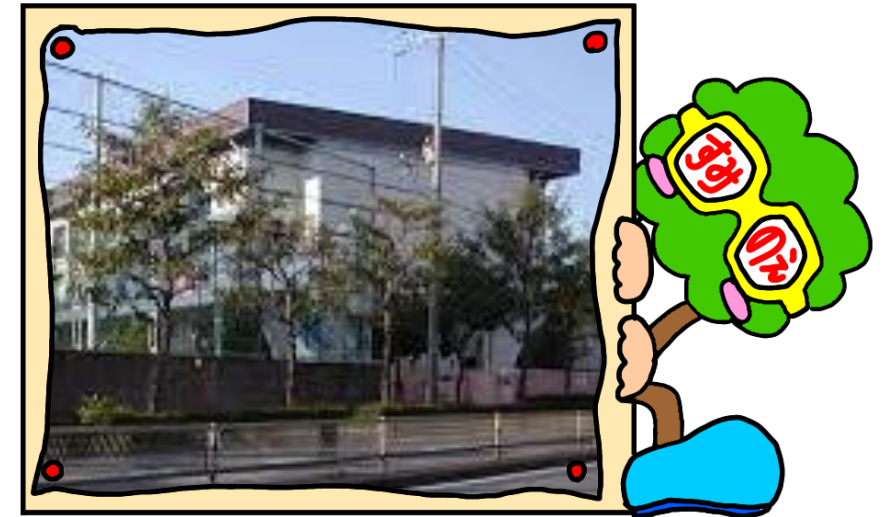


本校の取り組みについて

(R3年度 新転任者研修会・ミ二研 最終会 資料)

☒ 取り組みおさらい ☒ 発達について ☒ まとめ



特別支援学校学習指導要領解説

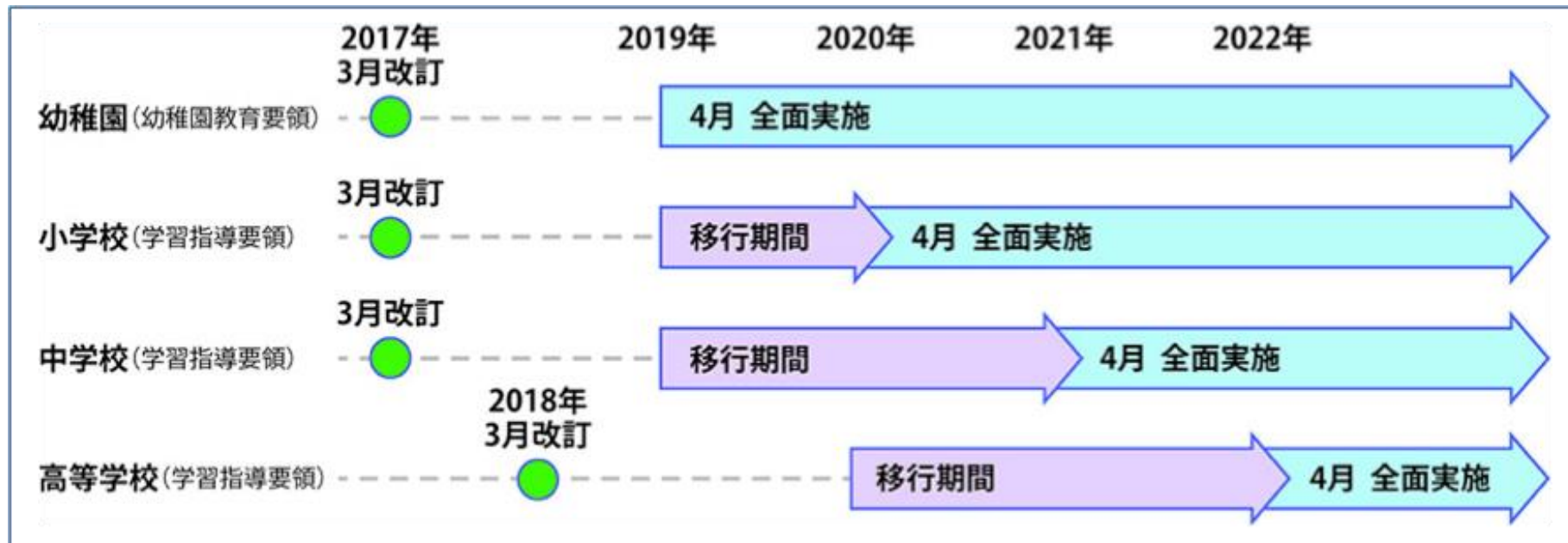
各教科等編 (小学部・中学部)

平成30年3月

文部科学省

< 住之江支援学校の取り組みの背景 >

学習指導要領の改訂と実施





子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、
連携する「社会に開かれた教育課程」

学びがかわる



社会がかわる

1. Society 5.0の社会像・求められる人材像、学びの在り方

(Society 5.0に向けた人材育成に係る大臣懇談会の議論を踏まえて)

Society 5.0の社会像

A I 技術の発達 ⇒ 定型的業務や数値的に表現可能な業務は、A I 技術により代替が可能に
⇒ 産業の変化、働き方の変化

日本の課題

A I に関する研究開発に人材が不足、少子高齢化、
つながりの希薄化、自然体験の機会の減少

人間の強み

現実世界を理解し意味づけできる感性、倫理観、
板挟みや想定外と向き合い調整する力、責任をもって遂行する力

Society 5.0における学びの在り方、求められる人材像

A I 等の先端技術が教育にもたらすもの ⇒ **学びの在り方の変革**へ

- (例) ・スタディ・ログ等の把握・分析による学習計画や学習コンテンツの提示
・スタディ・ログ蓄積によって精度を高めた学習支援(学習状況に応じたコンテンツ提供、学習環境マッチング等)

学校が変わる。学びが変わる。 ⇒ Society 5.0における学校(「学び」の時代)へ

- ・一斉一律授業の学校 → 読解力など基盤的な学力を確実に習得させつつ、個人の進捗や能力、関心に応じた学びの場へ
- ・同一学年集団の学習 → 同一学年に加え、学習到達度や学習課題等に応じた異年齢・異学年集団での協働学習の拡大
- ・学校の教室での学習 → 大学、研究機関、企業、NPO、教育文化スポーツ施設等も活用した多様な学習プログラム

共通して求められる力：文章や情報を正確に読み解き対話する力

科学的に思考・吟味し活用する力

価値を見つけ生み出す感性と力、好奇心・探求力

新たな社会を牽引する人材：技術革新や価値創造の源となる飛躍知を発見・創造する人材

技術革新と社会課題をつなげ、プラットフォームを創造する人材

様々な分野においてA I やデータの力を最大限活用し展開できる人材 等



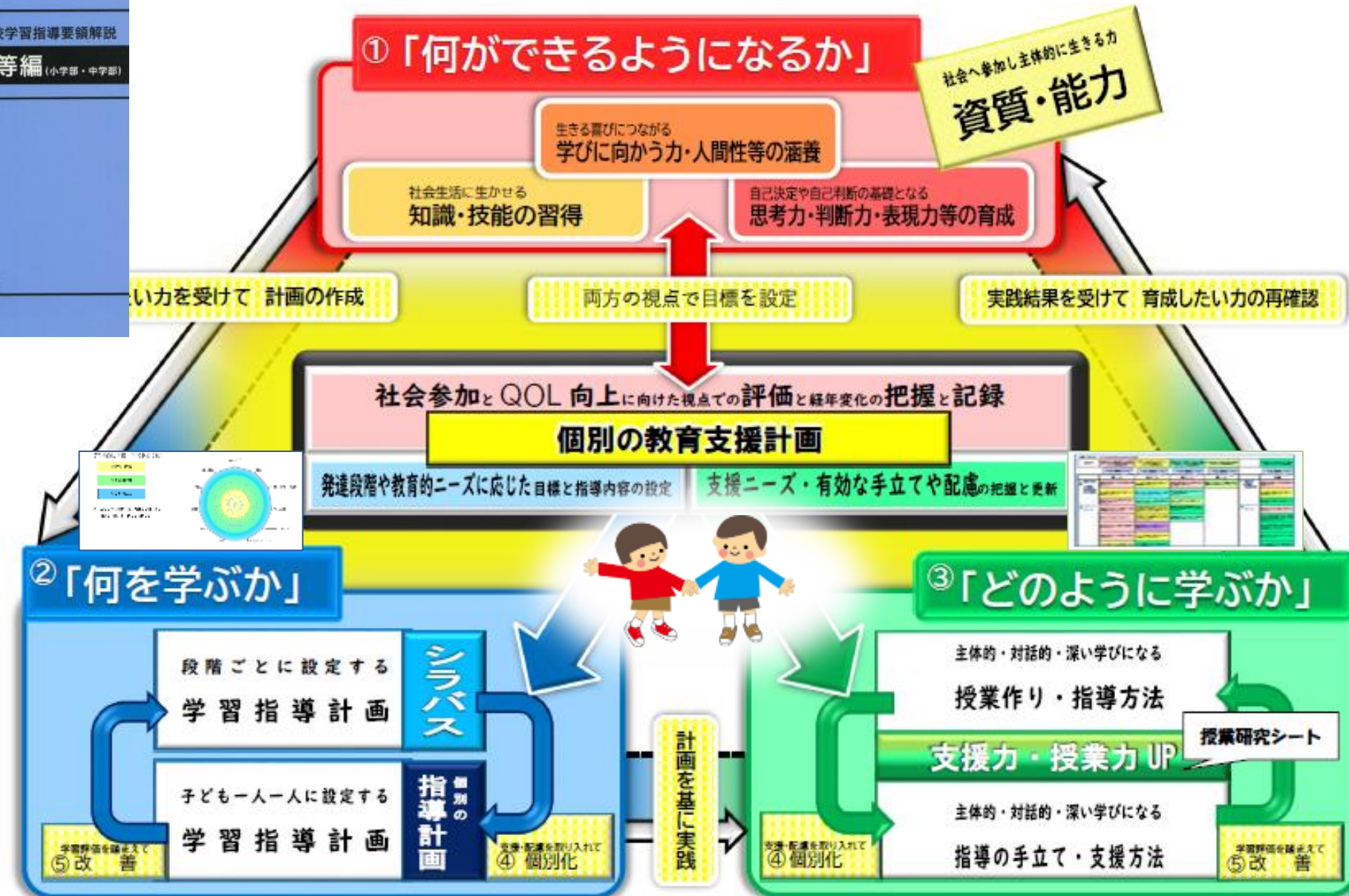
キーワード（一部）



- ・ 学びの連続性
- ・ 学校と社会とのつながり
- ・ アクティブラーニング
（主体的・対話的で深い学び）
- ・ 育成すべき資質、能力の3つの柱
- ・ 自立活動
- ・ キャリア教育
- ・ 生涯教育

特別支援学校学習指導要領解説
各教科等編 (小学部・中学部)
平成30年3月

文部科学省



取り組み
おさらい

発達観の
重要性

今年度の
まとめ



「何ができるようになるか」
未来の社会へ向けて
自立と社会参加

一人ひとりの子どもの実体把握
「切れ目のない支援」

「何を学ぶか」

シラバス
個別の指導計画

A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ
『個別の教育支援計画』 中学校／中学部・高等学校／高等部

氏名: _____ ひらがな入力: 文字入力→Eacキー→Enter

名前を入力⇒全ての欄に反

はじめに 該当する をクリック

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
発達障害	中1	中2	中3	高1	高2	高3
小学生程度 知的発達遅滞	中1	中2	中3	高1	高2	高3
中学生以上 知的発達遅滞	中1	中2	中3	高1	高2	高3

発達年齢の選択に迷う場合は、小学生程度知的発達遅滞をお選びください

コミュニケーション・学習生活における課題に顕著な課題がある
内潜性コミュニケーション基礎的な学習ができる
全般的な発達の遅延は認められない

「A²個別の教育支援計画」

「どのように学ぶか」

授業研究シート

発達段階と学び

じずぜぞたちつてとだぢづで
らりるれろ

小学部 1 段階 (A班)

大人と一対一の関係を築く

(学習指導要領)
より直接的な援助を受けながら
体験し、学ぶ段階



3項関係：9か月程度

小学部 1 段階：2つの発達段階で構成→発達の幅が大きい

対人関係／言語が
小 1 段階
B班にもたくさんいる

段階の構成／発達のめやす

可能となる学び方

認知発達の特徴（学びの内容）

小学部 1 段階

1～2 歳

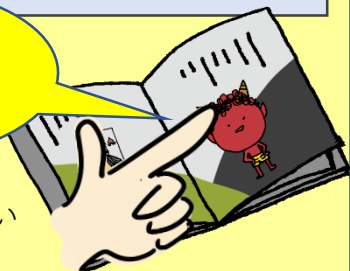
「あれ」



3項関係が成立している
(9か月程度)

0～12か月

みてみて
トントン



共同注意ができない
と・・・

小学部段階

実際の体験・感覚を基に概念を形成

(ICT機器やプリント学習は単なる“作業”となる)

感覚的体験／一貫性を基に学ぶ

- ・目が使えるようになってくる
(刺激の選択・注視・手と目の供応)

〈児童生徒の実態〉

概念形成・情緒的安定の為に、言語表出
の指導・支援、ルーティンと一貫性が必要

身体により直接的な感覚を基に
その場の世界を体験する

〈児童生徒の実態〉

感覚刺激を繰り返して遊ぶことが多い

2 歳

1 歳

- ・生活の中の一貫性を基に「良い・悪い」を知り、道徳感や社会性の基準が育まれる
- ・色や形・大小の区別ができる
- ・大人を介して、友だちと関わりを持つ
- ・他の子と一緒にいても、各々 1 人で遊ぶ
- ・単語を話す／50語程度の言葉を理解する
- ・生活でのシンプルな言語指示に応じられる
- ・バイバイなど簡単なジェスチャーができる

12 ヶ月

↑

0 ヶ月

- ・指さしで伝えられる
- ・“ダメ”がわかる
- ・指さしに応じる
- ・支援者と同じものに注意を向け、共有する
- ・自分の名前に反応する
- ・物を口に入れて確かめる
- ・不快な状況で泣く／感情が未分化

社会性の発達の基礎
三項関係

小学部 2 段階 (B班)

支援者の助けを得ながら活動を通じて友だちと関わる

学習指導要領より
段階の構成／発達のためやす

(学習指導要領)
言葉を添えたモデルを見て模倣するな
ど、支援を受けながら学ぶ段階

対人関係/言語が
小 1 段階
B班にもたくさんいる

可能となる学び方

認知発達の特徴 (学びの内容)

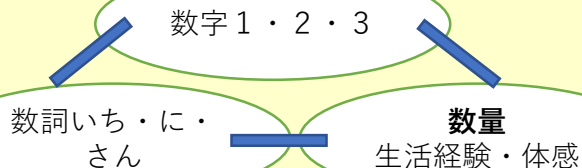
小学部 2 段階



3 ～ 5 歳

基礎的な言語発達／概念形成
が、今後の学習・生活や対人関
係の中で使える力に必要

数概念は 3 つセットで発達
(小 2 段階：10 までの数)



小学部段階

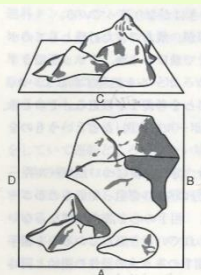
**実際の体験・感覚と言葉をその場で
結び付けながら概念を形成**
(体感・実体験を伴う学びが必要)

具体的な体験・経験 を基に学び
経験的パターンを基に行動する

〈児童生徒のよくある実態〉

- ・学習経験により読み書き・計算が作業
的にできるが、意味理解が伴いにくい

→ 「**体感一言葉**」による概念形成が必要



象徴機能の発達：ことば

自分が見えているものと、他
者が見えているものが違うこ
とを理解できるようになる

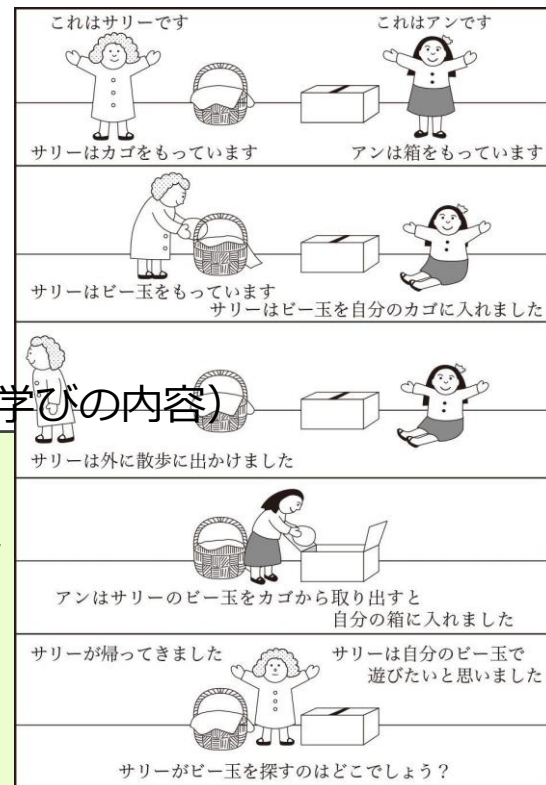
他者の心の理解
4 歳～獲得

5
歳

↑
3
歳

- ・正しい文で話し、出来事を伝えられる
- ・目的に向かい、少人数で、特定の友だちと
やり取りしながら協力して遊べる
- ・「良い・悪い」を理解し「罪悪感」を感じる
- ・自分と他人は見えているものが違うことが
わかる (自分には表面でも、相手には裏)
- ・数の意味や、シンプルなルールを理解する
- ・他者と一緒にごっこ (ふり) 遊びをする
- ・大人と一緒に特定の友だちと関わりを持つ
- ・気持ちの折り合いをつけることを学ぶ
- ・2 ～ 4 語文で話す／

200語程度まで語彙UP



小学部 3 段階（主にB班）

大人の助けがなくても、友だち同士で関わる

（学習指導要領）
場面や様子に自ら気づきながら、
適宜の支援で主体的に学ぶ段階

対人関係／言語が
小2段階 たくさんいる

段階の構成／発達のためやす

可能となる学び方

認知発達の特徴（学びの内容）

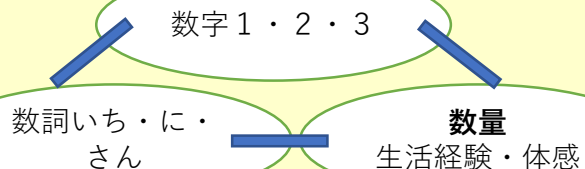
小学部 3 段階

小学 1 年生
程度

- ・ ことばで考える力の広がり
- ・ 文字から情報を得る
- ・ 文字を使って伝える



数概念は 3 つセットで発達
（小 3 段階： 20 までの数）



小学部段階

**実際の体験・感覚と言葉をその場で
結び付けながら概念を形成**

（プリント学習で学べることも多くない）



具体的な体験・経験 を基に学び
経験的パターンを基に行動する

〈児童生徒の実態〉

- ・ 学習経験により読み書き・計算が作業的にできるが、意味理解が伴いにくい
- 「体感一言葉」による概念形成が必要



他者理解の広がり



- ・ 身近な大人をモデルにして価値観を育む
- ・ 他者理解が進み、子ども同士で円滑に遊べる
（小学部 3 段階でも、社会性は小学部 2 段階以下の児童生徒が多い）
- ・ 状況に合わせて、自分の行動を適応させる
- ・ お互いをあまり意識せずに友だちになれる
- ・ 主語や助詞、目的語を使用。3～4 語連鎖構文

中学部 1 ～ 2 段階（CD班）

友だちと協力しながら活動する

（学習指導要領）
目的に向かって主体的に学ぶ段階

段階の構成／発達のためやす

可能となる学び方

認知発達の特徴（学びの内容）

中学部 2 段階

小学 3 年生
程度



中学部 1 段階

小学 2 年生
程度



中学部段階

- ・ 因果関係の理解の広がり
- ・ 複数の情報の処理

状況理解

具体的に見る・自分で経験・
体験することを基に、
ことばを使って考える

〈生徒の実態〉

口頭説明の記憶や内容理解
／ 頭の中での思考に課題

知的発達の遅れ：
ワーキングメモリーの課題に要配慮

→ 体験／具体的操作／見える化の支援

協力



- ・ 自我の発達：社会的なモデルが必要
- ・ 周囲の大人たちの対応をよく観察している
- ・ 友だちと協力的にチームでの活動ができる
- ・ 集団の中で、自我の形成・社会適応を学ぶ
- ・ 平等を求める：“ルールは皆で守る”など
- ・ 目的に向かって主体的に動くことができる
（支援学校では、この段階でも社会性の
発達 は小学部段階前半の生徒は多い）

高等部段階（D班）

（学習指導要領）
卒業後を見据え主体的に学ぶ段階

目的に向かって、協働する／スポーツシップ

目的に向かって…

段階の構成／発達のためやす

可能となる学び方

認知発達の特徴（学びの内容）

小学生高学年の知的発達段階（9～10歳）を超えると、一般的には“知的障害”の診断範囲ではなくなる

高等部 2 段階

小学 6 年生
程度



- ・ 想像しながら学べる（**抽象思考**）
- ・ ことばを使って**論理思考**ができる
- ・ 思考の広がり／理解・計画・推理

〈生徒の実態〉

物事の本質や要点を理解できていないこ
とも多く、個々に応じた確認が必要

発達障害の特性に応じた支援



- ・ 助け合うと同時に競い合う（仲間・チーム）
- ・ 仲間集団として、大人からの自立を試みる
- ・ 集団への献身、スポーツマンシップ
- ・ 自分の可能性の意識化→自己認知・メタ認知
- ・ 自分が直接経験したことのない事でも他者の気持ちや状況を想像して、理解・共感できる
- ・ 抽象思考ができるようになり、口頭説明や、文章のみでも理解・思考ができるようになる

高等部 1 段階

小 4 ～ 5 年生



R3年度 住之江支援学校 まとめ

1. 「A²個別の教育支援計画」

運用元年

A²【学習指導要領に対応した発達アセスメントと合理的配慮】シリーズ
ご意見・ご質問: T-iwayamak@medu.pref.osaka.jp

『個別の教育支援計画』 中学校／中学部・高等学校／高等部

名前: _____

ひらがな入力: 文字入力・Eacキー・Enter

名前を入力 ⇒ 全ての様式に反映

はじめに 該当する をクリック

	中1	中2	中3	高1	高2	高3
発達段階・スキル						
～5歳程度	中1	中2	中3	高1	高2	高3
就学前の知的発達段階						
小学生程度	中1	中2	中3	高1	高2	高3
短期的発達段階						
中学生以上	中1	中2	中3	高1	高2	高3
知的発達・身体的発達の 遅れのない児童						

発達段階の選択に迷う場合は、小学生程度知的発達段階をお選びください

コミュニケーション・学習
生活スキルの獲得に
顕著な課題がある

内省的コミュニケーション
基礎的な学習ができる

全般的な知的発達・
運動発達に関する
課題は見られない



3. シラバス

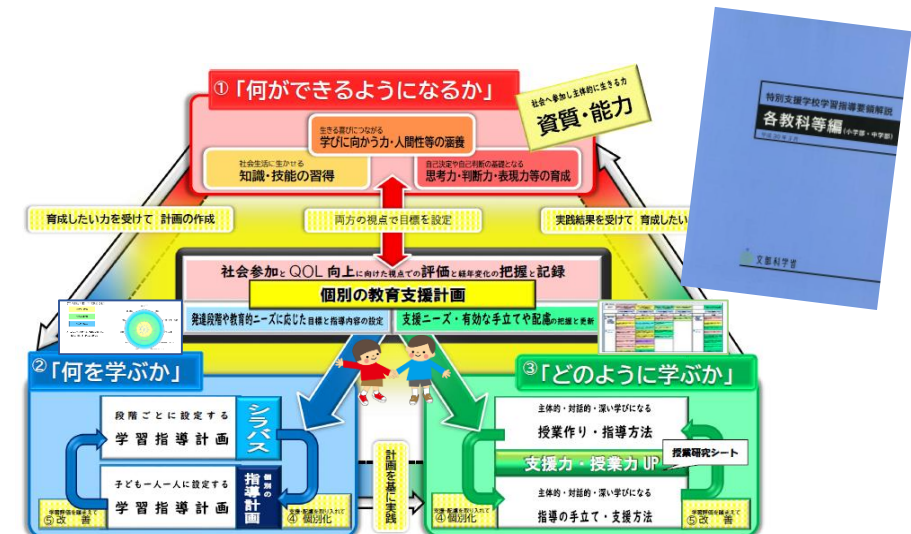
令和4年度 指導と評価の計画(シラバス) 様式1

学年	学期	教科	単元	単元の目標	評価の観点
令和4年度	第1学期	国語	文のつづき	文のつづきを、自分の言葉で表現する。	言語
令和4年度	第2学期	国語	文のつづき	文のつづきを、自分の言葉で表現する。	言語
令和4年度	第3学期	国語	文のつづき	文のつづきを、自分の言葉で表現する。	言語

2. 授業研究シート・教科別討議会

授業研究シート

教科	単元	指導要領	学習指導要領	評価の観点
国語	文のつづき	文のつづきを、自分の言葉で表現する。	言語	
算数	数のつづき	数のつづきを、自分の言葉で表現する。	数量	
理科	身のまわりのこと	身のまわりのことを、自分の言葉で表現する。	科学	
社会	社会生活	社会生活を、自分の言葉で表現する。	社会	
総合	総合的な学習の時間	総合的な学習の時間を、自分の言葉で表現する。	総合	



今後の課題 R4～

